舞台を撮る。新しい可能性を探る。

ネット公開を目差す戯曲（二人芝居）

#1　2006/1/1

スタッフ
演出家　弘務
撮影監督　窪
照明　池
音響

登場人物　作

女
遙（はるか）

男
万福寺　一歩（いっぽ）
ダスキンの男
おっちゃん
矢崎
音矢

Lost　失われた時間

客は入れない。誰もいない客席。客席も舞台になる。

○　客席

神風特攻隊の飛行服を着た万福寺一歩。七生報国の鉢巻。客席の間をさまよう。ライトが一歩に当たる。眩しさに顔を手で翳す。電車が通り過ぎる轟音。暗転。

○　舞台

救急車のサイレン。暗転の舞台での会話。

救急隊員Ａ　もうすぐ、神崎町。えっと、ローソン？そこを右。
救急隊員Ｂ　了解。
救急隊員Ａ　山野遙。林さんも運んだって。
救急隊員Ｂ　７回目らしいですね。
救急隊員Ａ　自殺常習犯か。誰が通報してきたの？
救急隊員Ｃ　本人らしいすよ。

救急車の止まる音。サイレンが消える。慌ただしい足音。

救急隊員Ａ　７階だよね。
救急隊員Ｃ　先に行って、エレベーターを。
救急隊員Ａ　了解。ストレッチャーを下ろして。
救急隊員Ｂ　了解。管理人さん？
管理人　鍵は開いてるよ。とにかく迷惑なんだから。

ドアを開ける音。舞台が徐々に明るくなる。遙が倒れている。

救急隊員（声）　臭い、糞しているよ。ビニールシート持ってきてよ」

遙の静かな寝息。かすかにいびきが混じる。手品ショーのように仰向けに寝たまま遙の身体が浮き上がる。やがて空中で停まる。

○　治癒の部屋

遙の身体が降りてくる。ベッドの上に降りる。遙が目を開ける。ゆっくりと髪を上げる。そのまま真っ直ぐに両手を伸ばす。隣のベットにいる一歩に気づく。

遙　君は誰？
一歩　一歩。一歩、二歩の一歩。万福寺一歩。
遙　万福寺？
一歩　家がお寺。あだ名は「チンポ」。一歩とチンポ。先生まで、出席を取る時に、万福寺、声を小さくして「チンポ」。生徒がどっと笑うんだ。

遙　そのチンポ君が何で私の隣にいるの。

一歩、突然立ち上がる。敬礼をする。

一歩　神風特攻隊。万福寺チンポ。自分が間違ってどうするねん。もとへ、万福寺一歩。（下を向いてうなだれる）分からない。突然来ちまったんだ。俺、昭和元年６月一日生まれ。タイムストリップって言うんだって。

遙　タイムスリップでしょ。

一歩が小さく笑い出す。

遙　何がおかしいのよ。

一歩　君は三日間、寝ばなし。８回、おならをした。自殺は７回、おならは８回。

遙　…。

一歩　ブーが三回。スーが三回。ブーが二回。

遙　そんなにあたしのおならが面白いの？

一歩　かあちゃんがでかいのぶっ放してたけれど。若くてきれいな人のおならなんて初めて聞いたよ。へー。

遙　それって駄洒落。

一歩　（指先をにおう。）

遙　まさか。変態！

枕を投げる。一歩が飛び退く。上手に逃げる。入れ替わりに白衣の男が入ってくる。ゆっくりベットのそばの椅子に腰を下ろす。

遙　先生…。

白衣の男　特攻隊は何処へ行きましたか。

遙　特攻隊？

白衣の男が隣のベットを指さす。遙が首を振る。

白衣の男　狂うとるんですなあ。ところで、どうですか？ガスは出ましたか。

遙　（小さく頷く）ようです。

白衣の男　何発？

遙　八回。

白衣の男　八回も…。それは。

二人とも下を向いて黙る。長い沈黙。

遙　まさか、へーなんて言わないですよね。先生。

また、長い間。男、ゆっくりと顔を上げる。

白衣の男　どうして分かったんですか。

遙があきれたように男を見る。ふーとため息をついて、やっと気持ちを切り替える。

遙　男の人と同室はいやです。男女七歳にして席を同じうせずって。

白衣の男　古いなあ、あなたも。それにこれは治療なんですよ。心を病んだもの同士が、お互いを知ることによって、治療する。自分だけの世界から抜け出すんですなあ。

遙　でも、嫌です。

白衣の男が立ち上がる。

白衣の男　特攻隊も、そんなに悪い男じゃない。突然、地下鉄に現れた神風特攻隊。ＤＮＡ鑑定までやろうって書いてた新聞もあったくらいだから。音矢の事件がなければ、今も、騒がれていたかも。かもは鴨鍋。サボってないで仕事だ。掃除歴４０年。

突然、箒で床を掃き出す。

ダスキンの男　レ、レ、のレ。僕はダスキンおじさん。お掃除、お掃除、ダ、ダ、ダスキン、ピッカピッカ。

ダスキンの男が下手に退場。照明が暗くなる。遙が寝返りを打つ。ゆっくりと仰向けになる。片手で胸を押さえる。右手がシーツの中をゆっくりと降りていく。膝を立てる。上手から飛行服姿の一歩が入ってくる。遙の様子に立ち止まり、身を隠す。遙の息が早くなる。一歩がズボンの間に手を入れる。遙を見つめたまま、蹲る。一歩の息も荒くなる。二人が同時にいく。

Lost　失われた時間

#2　2006/1/8

飛行服姿の一歩が、客席にいる。地下鉄の騒音。電車の光が舞台を通過する。

【声】
乗客１　何ですかね。あれ。
乗客２　突然話しかけないで下さいよ。眠っているんですから。
乗客１　立ったまま眠ってるんですか。
乗客２　勝手でしょ。ちょっとでも体を休めて、会社に行かなきゃ。

一歩が上手から舞台に上がる。

乗客１　あっ、乗ってきた。ななまほうくに。中華ラーメンの広告かなあ。
老人　七生報国（しちしょうほうこく）って読むんだよ。この世に七度生まれ変わったとしても、必ずや国に奉じてその恩に報いるという意味。若いもんは何にもしらん。ところで、わしは何処へ行くんや。

電車のドアが閉まる音。電車の動き始める音。

乗客２　何かよう分からん。映画の宣伝か。
乗客１　俳優には見えないすよ。とぼけた顔をしてる。
乗客２　関わらん方がいい。
乗客１　それがええ、せやけど、こっちへ来る。

一歩が舞台中央に歩く。

一歩　すんません。ここは何処ですか？
乗客２　もうすぐ難波。
一歩　難波ですか。大阪か…。帰ってきてたんや。
乗客１　平成の特攻隊か。
一歩　屈せえて。してもええのん。

突然携帯電話の着メロが鳴る。一歩が驚いて、飛び退く。

女（携帯電話）　うん、もうすぐ難波。６時に高島屋の前ね。
一歩　びっくりした。突然喋るな。今は昭和２０年やろ。

女　昭和なんて、とっくに終わってるわ。
一歩　とっくに終わっている。？（叫ぶ）何や、それ。

電車のドアが開く音。

女　（叫ぶ）駅員さん、変な人がいます。
駅員　痴漢ですか。
女　痴漢じゃないけど。
駅員　そうでしょうね。
女　どういう意味。
駅員　意味って。
女　痴漢も避けてとおるってこと。
駅員　（慌てて）とにかく、君、ちょっと来なさい。

一歩が舞台から引っ張られるようにして客席に下ろされる。

一歩　はい、昭和２０年8月１２日未明。えっ、３日後に戦争が終わる。（間）とにかく黙って僕の話を聞いて下さいよ。片道の燃料を積んで知覧から飛び立ちました。最後の水。おいしかった。すぐにアメリカの空母が見えました。こんな近くまで来ているんだ。俺は急降下をしました。

一歩が消える。

遙が下手にいる。小さく歌い始める。

時間

時は流れる
流れ落ちる砂のように
掬っても、掬っても
時は次々に消えていく

私が過ごした一時
私が過ごした日々
私が過ごした年月
今という時は帰ってこない

子供は大人になり
年を取り

やがて　みんな　旅立つ
また　子供が生まれ
新しい時が歩き始める
時は旅人
人は時と共に旅に出る

（間奏）

時は見えない
いつか見た夢のように
追いかけても、追いかけても
時は次々に消えていく

あなたと過ごした一時
あなたと過ごした日々
あなたと過ごした年月
今という時は帰ってこない

子供は大人になり
年を取り
やがて　みんな　旅立つ
また　子供が生まれ
新しい時が歩き始める
時は旅人
人は時と共に旅に出る

（間奏）

時は旅人
人は時と共に旅に出る

暗転

Lost　失われた時間

#3　2006/1/15

○　治癒の部屋

一歩がベッドにうつ伏せになってリンゴを眺めている。時々リンゴを回す。

遙　リンゴがそんなに珍しいの？
一歩　リンゴがピカピカ光ってる。まるでリンゴじゃないみたいに。
遙　おかしな子。リンゴはリンゴだよ。
一歩　何もかもがある。スーパーマーケット。ピカピカだ。食べ物があふれている。
遙　君の話には接続詞がないんだなあ。
一歩　バナナだってあるんだ。
遙　会話にならない。一方通行の言葉。
一歩　この世界は夢にあふれているよ。

一歩が立ち上がる。

一歩　何でもあるんだから。イチゴもある。チョコレートもケーキも、内緒だけどビールもタバコも。かっこいい服に、ジェットコースター。空中を翔る回転木馬。もう夢の国だ。聞いてよ遙。
遙　呼び捨てにしないで。
一歩　昨日の夜は観覧車に乗ったよ。目映いばかりのネオン。僕は今、大都会にいるんだ。もう、チンポとなんて呼ばせない。
遙　それは関係ないと思うけど。
一歩　みんな同じ顔をした美しい女の子たち。お尻も、お乳も、ユッサユッサ。ヘーイ、ミュージック。

夢に夢中

なんでもあるさ、この世には
驚き、不思議、うっとりする甘い夜、あー快感
僕は夢に夢中

腹を空かせていたあの頃は
つぎはぎだらけのズボンをはいて
足にいっぱい霜焼けつくり
青ばな垂らしていた子供はもういない
戦争に行って、死んでしまうこともない。
おお、天国
僕は夢を見ていればいい
僕は夢に夢中

一歩がバック転をする。

遙　（拍手する）格好いいぞ、チンポ！
一歩　（急にダンスをやめる。腕時計を見る）そうだ、時間だ。

一歩が走って上手に消える。遙が床に落ちていたリンゴを拾う。そして、一回だけ囓る。囓ったリンゴを椅子の上に置く。リンゴにライトが当たり、周りがfade out。リンゴが空中に浮く。ダスキンの男がfade in。箒を右手に、左手に囓られたリンゴを持ったダスキンの男がいる。

ダスキンの男　特攻隊は行きましたか。また、パチンコだな。軍艦マーチが懐かしいのかな。音矢とえらい違いだ。
遙　（闇の中から）音矢？
ダスキンの男　この上に入院しているよ。朝6時に起きて「君が代」を歌う。
遙　そう、あれは誰かが歌っていたんだ。
ダスキンの男　礼儀正しい少年だよ。挨拶もきっちりとする。人の目を見て話す。狂ってなんかいない。音矢は浅山社会党委員長を刺した。
遙　どうしてだろう。覚えている。私が生まれるずーと前のことなのに。

遙がfade in。

遙　教えて、ここは何処なの。

Lost　失われた時間

#4　2006/1/29

○病院廊下

遙が立ち上がる。髪を指で梳いて後ろを向く。遙がfade out。上手から、フリーライター矢崎が登場する。ひも付き眼帯（斜め）をかけている。

矢崎　フリーライター矢崎登場。やーだあ。一人でいくつもの役をやると、前の役が残っている。一歩、出て行け。えっ、後、一歩。（叫ぶ）俺は矢崎だ。ある時は片目の運転手、ある時は、フリーライター、また、ある時はレレレのおじさん。

矢崎が、ふっと、考え込む。

矢崎　演じるというのは人間にしかできない。猿にはできない。と、言って去る。猿芝居って言葉もあるけれども。

矢崎が考え込む。

矢崎　俺は何のために出てきたんだろう。こうして一人で立っていると、舞台というのは無限の闇だ。

人はみな、人生という舞台の芸人。
～Tomorrow,and tomorrow,and tomorrow,（ゆっくりと前に歩く）
そして、昨日という日はすべて土に返る。（振り返る。元に戻る。小さなろうそくを持っている。）
死への道を、馬鹿者どものために照らしてきた。消えろ、消えろ、短いろうそくよ！
人生は歩く影法師、あわれな役者だ、
舞台上で持ち時間だけ見得をきり、わめき、
出番が終われば、聞く人もなし。～マクベス

矢崎が聞き耳を立てる。

矢崎　君が代」が聞こえる。久しぶりだなあ。音矢が歌っているのだろうか。この病院には、自称特攻隊の万福寺一歩もいる。浅山氏暗殺の音矢もいる。ゴシップの種がいっぱいだ。一歩は女の子と同室だって。治療らしいがこれも暴いてやる。ここだ、３４５号室。覚えにくい番号だなあ。（ドアが突然開く）おっと、ごめんなさい。（振り返る）一歩と同室の女かなあ。どこかで見た顔だ。どこかで…。

矢崎がドアをノックする。聞き耳を立てる。中からの反応はない。ドアを少し開けて中を伺う。

矢崎　失礼しますよ。

ベッドがfade -in。

矢崎　女がすぐに帰ってくるかもしれないから、急がなきゃ。男物のパジャマ。（ピンセットと小さなビニール袋を取り出す）こっちが一歩のベッドだ。万福寺は空襲で焼けちゃったけれど、万福寺一歩のその緒は残っていたんだよ。探して、探してやっと手に入れた。へーそお。まだ一歩がいてる。しつこいなあ。

枕をひっくり返す。ピンセットで髪の毛をつまむ。

矢崎　ＤＮＡ鑑定で、やつの化けの皮を剥いでやる。これだけあれば十分だ。（ふと、隣のベッドを見る）。こっちも採取しておこうか。後で、何かの役に立つかもしれない。

矢崎が遙のベッドに。枕を調べる。

矢崎　ない。清潔なんだなあ、彼女は。万福寺一歩とはおお違いだ。

枕元から順番にベッドを調べていく。

矢崎　あった。（一本の毛をつまみ上げる。短い間。）縮れている。

ドアの開く音。急いで毛をビニール袋の中に入れる。遙が入ってくる。ベッドから飛び退いて、一歩のベッドの方を見る。

遙　誰？

矢崎　万福寺一歩さんを訪ねてきました。

遙　彼はいません。

矢崎　そうですか。いつ帰りますか？
遙　知りません。
矢崎　では、出直してきます。彼は携帯電話を持っていますか。
遙　持っていますよ。5つも。
矢崎　5個も…。
遙　でも、電話番号は知らない。

矢崎が遙の顔をまじまじと見る。

遙　何か、私の顔に。
矢崎　どこかでお会いしたような…。
遙　私は知りません。
矢崎　掌（てのひら）…。そうだ、掌教だ。
遙　何のこと。私は知らない。
矢崎　君は…。

暗転。

Lost　失われた時間

#5　2006/2/11

○345号室

上手のベッドに一歩。下手のベッドに遙。腰掛けている。

遙　今日は出かけないの？
一歩　行かない。
遙　なぜ？楽しいことがいっぱいって言ってたじゃない。
一歩　はじめは自動ドアが面白くてね。入りマース。はい、どうぞ。守衛さんに叱られるまでやっていた。
遙　馬鹿みたい。
一歩　ドアは自分で開けてはいるもんだね。

一歩が黙って自分の足元を見る。

一歩　今日は君と話がしたい。
遙　（立ち上がる）私はいや。誰とも話したくない。
一歩　（あわてて）5分でもいいんだ。聞いてくれるだけでも。

遙がベッドに腰掛ける。小さくあくびをする。

一歩　はじめは面白かった。何でもある。ハンバーガー、トマト、リンゴ、イチゴ、チョコレート、ステーキ、見たこともない果物。地下鉄に乗れば、何処にでもすぐ行ける。ゲームにもはまった。ここはユートピアだと思った。
遙　ユートピア。君、言葉が増えたね。
一歩　その分、言葉を失った。
遙　君には失う言葉があった。

一瞬の沈黙。一歩は遙を見つめる。そして、目を逸らす。足元を見る。

一歩　僕がここにいるという証拠がないんだ。僕は君にだけ見える幽霊かもしれない。僕の過去は昨日見た夢かもしれない。
遙　君はいるよ。間違いなく。
一歩　ジェットコースター。映画館。夢のような国だ。女の子も、特攻隊には優しかった。女子大生に抱かれたよ。君に興味がある

って。初めての女の人。おっぱいを舐めて、僕は何度も、何度も、射精した。そして、泣いた。

遙　泣いた…。

一歩　無性に悲しかったんだ。

一歩、すーと立ち上がる。

一歩　帰りたい。

遙　帰れば死ぬよ。

一歩　何もないよ、ここには。ビルが建ち並び、人があふれ、笑い声があふれ、飢えることもない。でも、何もない。みんな失われている。

一歩が舞台中央まで歩く。ふっと、聞き耳を立てる。

一歩　音矢が歌っている。

遙　また、朝が来たんだ。

遙が、小さく「君が代」を口ずさむ。一歩がタバコに火をつける。

遙　マッチ擦る　つかのま海に霧ふかし　身捨つるほどの祖国はありや。

一歩　（タバコの煙をゆっくりと吐き出す）寺山修司だね。

遙　よく知っているね。

一歩　音矢の部屋にあった。

遙　時間が合わない。

一歩　いいんだ、そんなの。音矢の部屋には鍵がかかっているんだ。１９６０号室。一つだけ部屋の番号は４桁。時間はそこで止まっている。１９６０年。そのとき時間は止まったんだ。僕は音矢の部屋にはいることが出来る。

遙　鍵がかかっているのに。

一歩　ドアーを通り抜ける。体が霧のようになって、すーとね。音矢は、シャドーボクシングをしていた。見えない敵を相手に。汗まみれになって。

一歩がシャツを脱ぎ、上半身裸になり、シャドーボクシングを始める。やがて、その影だけが残る。遙はベッドに仰向けになる。シャドーボクシングの影が消える。

遙　掌教って、覚えてますか。おっちゃんは教祖って言われたけど、自分から、そう言ったことはなかった。

暗転。

Lost　失われた時間

#6　2006/2/19

○地下鉄の駅

下手のベッドに遙が腰掛けている。

遙　掌教って覚えていますか？おっちゃん。地下鉄の聖人。

電車の明かりが、轟音とともに通り過ぎていく。駅のベンチに腰掛けた男の影が浮かび上がる。

遙　おっちゃん…。そんなわけはない。私が殺したのだから。

おっちゃんの影が消える。

遙　時間って残酷だなあ。みんな消え去っていく。失われていく。そして、影も消える。

遙が舞台の中央まで歩く。ベンチに腰を下ろす。

遙　朝の八時きっかり。おっちゃんは地下鉄の駅に現れる。駅の入場券をシャツのポケットに差し込んでいつもの場所に腰掛ける。ホームに電車が入ってくる。ドアーが開く。はきだされる人々。ドアーが閉まる。暗い穴に消えていく電車。繰り返され風景を飽きることなく眺めている。目を細め、口元は少し笑っているようだった。一日に何人の人々が、おっちゃんのそばを通り過ぎるだろう。殆どの人がおっちゃんに気づかない。気づいても、足を一歩進めると忘れる。

無数の影が舞台をよぎる。遙が立ち上がる。くるりと一回転する。遙がfade out。白いシャツ。ズボン。野球帽。男装した遙がベンチに座ってる。

遙　知恵遅れのおっちゃん。シャツはいつも白い。髭もきれいに剃っている。あれは、きっと、どこかの金持ちなんだよ。空中を見つめ、何か一生懸命思索しているような時は、「うんこをしようか考えている時なんだ」。ほら、立ち上がった。ほら、でっかい屁をこいた。精神遅滞なんだよ、可哀想だね。中学生の男の子が

絡む。「おっさん、何やってんだよ」。おっちゃんはにこにこ笑う。男の子はベンチを揺らす。

遙がベンチから転げ落ちる。

遙　駅員が駆けつける。「大丈夫ですか。血が出ていますよ。ひどいことをするなあ。電車が来ても、飛び込んじゃ駄目ですよ。人がいっぱい迷惑するから」

電車の明かりが、轟音とともに通り過ぎていく。

遙　女子高生がおっちゃんを見下ろしていた。おっちゃんが笑顔を浮かべると、その子も笑った。

様々な女の影が、おっちゃんの周りを去来する。

遙　朝は女学生。昼は主婦。夕暮れは、会社帰りのＯＬ、夜になると、酒場の女。娼婦もいた。みんな、引き寄せられるように、おっちゃんの周りに集まった。おっちゃんは無言だった。ある日、少女が、おっちゃんの左の掌と自分の右の掌を合わせた。遊びだった。次に娼婦がおっちゃんの右の掌と自分の左の掌を合わせた。少しおっちゃんに触れてみたいと思ったから。「心が軽くなったよ」。少女と娼婦は同時に言った。「一駅だけ、電車に乗ってみようよ。電車は空の下を走る。もう一駅乗ると海の駅に着くよ。海に小舟を浮かべてみんな一緒に住もう」

遙がfade out。舞台の照明が海のイメージに変わる。

女【声】（多数）　帰りましょう、海へ。

舞台に霧がかかる。女達が静かに歌い始める。

海へ

海へ　私の海へ　私が生まれた海へ
海へ　あなたの海へ　あなたが生まれた海へ
帰りましょう
帰りましょう
私たちは海から来た
帰りましょう　海へ

女１　（突然。叫ぶ）舟よ、小さな舟。釣り船かしら。波間に漂っている。誰かいるのかしら。誰もいないね。

女２　待って。何か動いている。

下手のベッドに遙が腰掛けている。

遙　小さな舟の中にいたのは私。毛布にくるまれた、生まれたばかりの私。掌にマジックインクで「はるか」と書いてあった。

遙がfade out。

Lost　失われた時間

#7　2006/2/19

上手から矢崎。

矢崎　自殺常習者か…。あの子だと思うんだけど。長いまつげ。真っ黒な瞳。ストレートな髪。（毛をつまんで見る）これは縮れているけれど。化粧気のない顔。

矢崎が立ち止まる。屋台の長椅子が舞台奥にある。矢崎が近づく。のれんをくぐる。

矢崎　誰もいない。水でももらおう。

手をのれんの奥に入れる。

矢崎　水が一升瓶に入っている。貰いますよ水。

一口飲む。

矢崎　酒ににた水。もう一杯。

半分飲んでコップを置く。

矢崎　２０年近くも前になるかなあ。（ふっと息を吐く）掌教の教祖と１７人の女たちが箱船に乗って、海をさまよい始めたのは。俺の記者時代の俺のたった一つの特ダネ。掌教の教祖の過去。「事故か過失かそれとも…」

矢崎がfade out。#0

○影絵

舞台にスクリーン。かくれんぼ。子供の声。

女の声　まあだだよ。
男の声　もう、いいかい。

女の影がスクリーンを横切る。

女（影）　まあだだよ。

女の影が消える。男の影に切り替わる。

男（影）　もう、いいかい。

男の影が消える。長持の影が現れる。女の影が現れる。

女（影）　まあだだよ。

女の影が、長持のふたを開ける。

女（影）　もう、いいよ。

女の影が長持の中に消える。蓋が閉まる。男の影が現れる。立ち止まり、周りを探す。

男（影）　（小さく）もう、いいかい。

男の影が長持を見つける。長持のふたを開ける。中に消える。スクリーンから影が消える。

矢崎　８つと４つの兄姉のかくれんぼ。「もう、いいかい。まあだだよ」。薄暗い蔵の中。長持がバタンと閉まって…。その中で何が起こったんだろう。

「へい、毎度の声」に矢崎が驚いて、コップを落としかける。

矢崎　なんだ、いたのかよ。おやじ、掌教って知ってるか。古い話だね。そう、そう、ハーレム、ハーレム。そう、そう、少女もたくさんいたからね。親たちが訴えて、少女拉致の疑いで、警察が入った。もう、一杯貰おうか。

酒を一気に飲み干す。矢崎がコップを置いて立ち上がる。

矢崎　教祖は責任能力なしで、すぐに釈放されたけれど、一気に、掌教は転落していった。俺の記事が教祖の背中を押したみたいで嫌だった。そんなことはもういいか。

矢崎の足下がふらつく。

矢崎　箱船に残ったのは、海で拾った女の子と、行くあてのない老婆。何も分かっていない教祖。

舞台が赤く染まる。

矢崎　箱船は誰かに火をつけられ、燃え上がった。俺も駆けつけた。漆喰の海に火の粉を吹き上げる箱船は悲しいほどに美しかった。写真も撮らずに呆然と眺めていた。

舞台が元に戻る。矢崎はふらつきながら、下手に歩く。

矢崎　それから8年。もう一つの悲劇が起こった。（縮れ毛を見つめる）少女は女になった。

矢崎が、ふっと、舞台中央を振り返る。

矢崎　今は何もない。全てのものは失われる。全ての時間は失われる。昨夜見た夢のように。

暗転。

Lost　失われた時間

#8　2006/2/19

○音矢の部屋

ベッドに腰掛けてバレーボールを手でつく。床にバウンドさせる。ボールの音が続く。音矢は弾むボールを無表情に見続ける。音矢がfade out。瞬時に音矢がfade in。上半身裸の音矢。歯を磨く。バレーボールがベットの上にある。音矢がfade out。瞬時に音矢がfade in。ベッドのシーツを引っ張る。同時にバレーボールが床に落ちる。音矢の体が躍動する。床に腹這いになって、弾むバレーボールを右手で押さえる。

暗転。

○３０２号室

遙と一歩がベッドに腰掛けて向かい合っている。

遙　今日も出かけないの？

一歩　君と話している方が。じゃまかなあ。

遙が首を振る。

一歩　君と話していると、なぜか懐かしい気がする。時代が違うのに。

遙　私も。

一歩　君も…。

遙　ずーと一緒にいたような。小学校、中学校、高等学校。机の下に君はかくれていたよ。

一歩　僕にはあまり思い出がないんだ。頭が悪いから。でも…。君はいたよ。いつも教室の隅で。窓から外を眺めていた。

遙　それは小学校の頃だね。３年１組。窓の外から公園が見えた。おっちゃんを見ていたんだ。缶潰しって知っている？

一歩　缶潰し？

遙　（手で２０センチぐらいを示す。）これぐらいの大きさで、間に缶を挟んで潰すの。足で踏み潰すんだけれども、おっちゃんは力が強いから、手で潰していた。

遙が立ち上がる。窓から外を見る。

遙　今も見えるよ。一歩、こちらへおいで。一歩が立ち上がる。遙と肩を並べる。

一歩　あの人がおっちゃん。

遙　そう。缶潰しで私を育てた。おっちゃんには仕事をしているって意識は多分なかった。

一歩　飽きないかなあ。

遙　缶潰しが大好きだから、飽きない。缶はね、子供たちが集めてくる。誰も言わないのに。おっちゃんの周りに缶を置くと嬉しそうに帰って行く。

一歩　子供だけが心で話しているんだね。

遙　そうだと思う。

一歩　また、来たよ。3本も抱えている。潰し終わったら、また来たよ。子供は次々やってくる。

遙　おっちゃんは黙々と缶を潰す。

一歩　見ていても飽きないね。

遙　見て。あれが私。

一歩　かわいいね。

遙　かわいいでしょ。私を見ると、おっちゃんは立ち上がる。おっちゃんの周りを私はぐるぐる回る。

一歩　楽しそうだね。

遙　誰にだって幸せな時間はある。短かったけれど。私は幸せだった。

一歩　消えた。

遙　一緒に住んでいたおばあさんが亡くなってから、私が家事をしたの。料理はうまかったのよ。時々くる民生委員おじさんも、遙の料理はおいしいって言ってたよ。おっちゃんもおいしそうに食べていた。（一歩を見る）どうしたの？聞いているの。

一歩　聞いているよ。

遙　急にうんこがしたくなったの？↑奥泉光著「モーダルな事象」からのパクリ。

一歩　聞こえないんだ。

遙　何が？

一歩　音矢の「君が代」が。行ってみる。

一歩が下手に向かって駆け出す。暗転。

上手から、一歩が現れる。ドアーを掌で押す。ゆっくりと体

が吸い込まれる。下手を見上げる。

一歩　（叫ぶ）音矢！

「七生報国　天皇陛下万歳」文字が壁に浮かび上がる。

一歩　歯磨き粉を水で溶かして君は書いた。「七生報国　天皇陛下万歳」

下手に遙がfade in。

遙　（つぶやく）君は音矢を見た。

一歩が、乙矢に向かって敬礼をする。

Lost　失われた時間

#9　2006/2/21

○１９６０号室

ダスキンの男が下手より、掃除道具を持って登場する。

ダスキンの男　レ、レ、のレ。僕はダスキンおじさん。お掃除、お掃除、ダ、ダ、ダスキン、ピッカピッカ。

一心不乱に掃除をする。

ダスキンの男　掃除をやって４０年。俺は掃除なんて大嫌い。でも、仕事なんだ。生きるために食べるためにやる。タレントなんかは、僕はサラリーマンにはなりたくなかったなんてぬかす。仕事に生き甲斐。ふーんだ。世の中、支えてるんはつまんない仕事なんだよ。

また、一心不乱に掃除をする。

ダスキンの男　自殺女に、特攻隊、テロリスト。

一瞬掃除を止めて何か考える。急に思い出したように。

ダスキンの男　さあ、あの落書きを消さなきゃ。

モップで「七生報国　天皇陛下万歳」の文字をこする。

ダスキンの男　ピカピカだ。みんな消えちゃえ。

暗転。

○３２１号室

遙と一歩がベッドに腰を下ろして向かい合っている。

一歩　君は心の中に一つ鍵をかけている。

遙　鍵？

一歩　閉じられた時間。君はその時間を消してしまいたい。そのた

めに、何度も死のうとする。

遙　鍵を開ければ…。

一歩　…。

遙と一歩が見つめ合う。遙が小さく言う。

遙　私は死ねる。

遙がゆっくりと立ち上がる。窓に向かう。一歩の視線が遙を追う。一歩がfade out。

遙　遠い昔のようで、昨日のようで。

窓のカーテンを開ける。

遙　あの時、急におなかが痛くなった。トイレに行ったら、おしっこのところから血が出ていた。保健室。名前は忘れたけれど優しい先生だった。「女の子は誰でも赤ちゃんを産む体になるのよ」「私が赤ちゃんを産む！」「驚くことじゃないよ。君も生まれてきたんだから。先生が説明しているのに、君は窓の外ばかり見ていたから」頭をゴシゴシ。「先生、帰っていいですか？」「いいよ。でも雨が降りそう。傘は持っているの？」私は首を振る。「返すのはいつでもいいよ」私は、赤い傘を１本借りた。

暗転

落雷。稲妻。傘を差した遙が下手から入ってくる。

遙　ただいま。

遙が傘をたたむ。上手におっちゃんがfade in。

遙　おなかが痛くなって、早引きしてきたよ。もう大丈夫。ご飯の支度をするね。

遙が台所に立ち、包丁を取り出す。おっちゃんが小さな声を出す。遙がおっちゃんの方を見る。

おっちゃん　もう、いいかい。

遙が笑う。

遙　まーだだよ。
おっちゃん　もう、いいかい。
遙　まーだだよ。

遙が包丁で野菜を切るマイム。

おっちゃん　もう、いいかい。
遙　まーだだよ。
おっちゃん　もう、いいかい。
遙　まーだだよ。
おっちゃん　もう、いいかい。
遙　（「もお」という感じで）まーだだよ。

突然、おっちゃんが立ち上がる。

おっちゃん　（叫ぶ）もう、いいかい！

おっちゃんが遙を背後から抱きしめる。顔を遙の肩に埋める。

おっちゃん　（小さく）は・る・か。

遙がおっちゃんの手から抜け出し。次の瞬間、おっちゃんの胸に包丁を突き刺す。おっちゃんがゆっくりと倒れる。遙が馬乗りになり、両手で包丁を握り突き刺す。

遙　２回。

また突き刺す。

遙　３回。

また突き刺す。

遙　４回。

次々に突き刺す。

遙　５回、６回、７回、８回、９回。…。１２，１３，１４，１５。

遙がバサッとおっちゃんの胸に体を投げ出す。頬が血に染まる。

遙　もう、いいよ。もう、いいよ。

遙がおっちゃんのまぶたを閉じさせる。

遙　もう、いいよ。

遙が、おっちゃんの胸を広げる。遙がセーターを脱ぐ。裸の乳房を裸のおっちゃん胸に押しつける。遙の目から涙があふれる。包丁を持った手はゆっくり刺す動作を繰り返す。

遙　１８，１９，２０，２１。もう、いいよ。２２，２３，２４，２５。もう、いいよ。

暗転。

奈良県　宇陀市大宇陀区本郷　又兵衛桜

Lost　失われた時間

#10　2006/2/22

○３２１号室

背を向けた遙が窓際に立っている。飛行服を着た一歩がベッドに腰を下ろしている。

一歩　そろそろ、行かなくちゃ。

遙が振り向く。

遙　帰っちゃいやだ。

一歩　段々、僕が薄くなってきている。もうすぐ消えてしまうよ。

遙が一歩に近づく。

一歩　飛行機の音が聞こえ始めているんだ。

遙　死にに帰るんだね。

一歩　（少し笑う）特攻隊だから。さあ、行くよ。

一歩が立ち上がる。遙が駆け寄る。一歩にしがみつく。唇をあわす。そっと、一歩が遙の体を離す。第２ボタンをちぎり取る。遙の手に握らせる。

一歩　僕の形見だ。

飛行機の音。

一歩　天皇陛下万歳！

一歩がfade out。上手から矢崎が現れる。

矢崎　特攻隊は？

遙　帰ったわ。

矢崎　帰った？いなくなったのは良いことかもしれない。ここには彼の居場所はないだろう。彼は万福寺一歩じゃなかった。別人だよ。

遙　そんなことを調べていたの。
矢崎　君も調べたよ。
遙　私を？
矢崎　一歩と君のＤＮＡは一致した。
遙　私と一歩が。何、それ。
矢崎　同一人物ってこと。
遙　（間）分かった。何もかもが。

暗転。

○救急病棟

看護師と医師。医師が時計を見る。

医師　午前５時１３分。いいですね。

看護師が頷く。

医師　結局は誰も来なかったね。後は当直に任せて帰りましょう。

医師が手を洗うマイム。

医師　不謹慎だけど、７回目でやっと本懐をとげたというところかなあ。

医師が手を拭く。

医師　深夜食堂って知ってますか？
看護師　いいえ。
医師　夜の１０時から朝の６時までやってるんです。軽いフレンチなんかあって結構いけますよ。一緒に行きませんか？
看護師　もう少しここにいています。

看護師がかがむ。

看護師　あれ、何か握っている。
医師　まさか、何度も脈を計ったのに。
看護師　ボタン…。

医師がfade out。

看護師がボタンを眺めながら、窓に近づく。カーテンを少し開ける。

看護師　もうすぐ夜が明けるわ。

テーマ曲「時間」が静かに流れ始める。

時間

時は流れる
流れ落ちる砂のように
掬っても、掬っても
時は次々に消えていく

私が過ごした一時
私が過ごした日々
私が過ごした年月
今という時は帰ってこない

子供は大人になり
年を取り
やがて　みんな　旅立つ

また　子供が生まれ
新しい時が歩き始める

時は旅人
人は時と共に旅に出る
（間奏）

暗転。

時は見えない
いつか見た夢のように
追いかけても、追いかけても
時は次々に消えていく

あなたと過ごした一時

あなたと過ごした日々
あなたと過ごした年月
今という時は帰ってこない

子供は大人になり
年を取り
やがて　みんな　旅立つ

また　子供が生まれ
新しい時が歩き始める

時は旅人
人は時と共に旅に出る

幕。

２００６年２月２２日